

赤岳

(長野・山梨県)

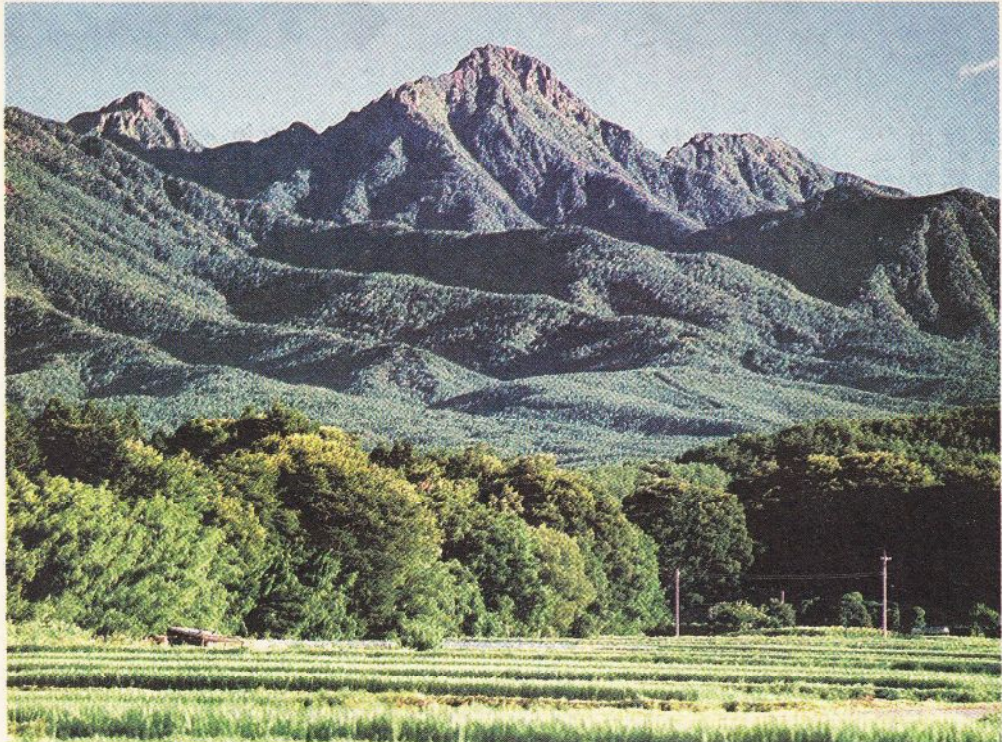
八ヶ岳の「八」は数の多い意で、南北にほぼ一々、阿弥陀岳や権現岳の直線上を噴出した多くの火山の総称であり、その盟主が赤岳（あかだけ）

優美な稜線王者の貫録

だが、火山性の赤褐色の山肌、朝夕の陽を浴びるとき、荘厳そのものに赤に染まるのを古人は素直にその山の名にしたのだらう。赤岳からほぼ南南東に引いた直線上の、頂上から九キロまでの直線

赤岳から南南東に引いた直線上の、頂上から九キロまでの直線

本州中部を一望



ガイド

山梨県側からの登路は見た目の険しさに応じた難しさがある。一般的には、長野県側JR中央線茅野駅からバスで美濃戸口へ。林道歩き一時間で美濃戸に着く。柳川南沢に沿って約二時間、初めて姿を現す赤岳の姿が素晴らしい。このすぐ先の行者小屋

から赤岳には三本の登山道がある。どれをとっても二時間内外で頂上へ立てる。健康なら日帰りも可能な山であるが、山小屋は多いから、一泊二日で阿弥陀岳や横岳、硫黄岳への縦走を組み合わせたプランを考えるといいだろう。▼登山情報問い合わせ先 茅野市役所 0266・72・2101

本州中部を一望 赤岳頂上に立つと、まさしく景となるのに対し、八ヶ岳は、なんだか日本離れした風景にも感じられる。八ヶ岳を好んで見るのは、西欧系の子供たち、一様に無関係ではあるまい。この山は、日本の山が好きなことでは人後に落ちないと思いつつも、その傾向は否めない。 (文・写真 長沢 洋)